114 學年度第一學期 Eurasia 基金會(from Asia)國際講座
第七期「亞洲共同體：東亞學的構築與變容」系列講次(1)
講題: 數位時代外語學習行為的轉變與學習策略

吳如惠
(2025.09.25)

摘要

講者針對討數位時代下 JFL 與 JSL 學習者的差異，指出 JFL 學習者因缺乏語言環境，聽解能力相對薄弱，且常依賴字幕。有效的語言學習需結合行動與認知策略，如後設認知、推測及真實教材運用等。優良學習者能自覺規劃、持續練習並主動創造語言使用情境。善用數位資源與策略，可提升學習成效並克服環境限制。

一、JFL 與 JSL 學習者之差異

講師首先指出 JFL 與 JSL 的差異。以台灣的日語學習者為例，屬於 JFL 類型，在日常生活中缺乏自然接觸日語的機會，相較之下，JSL 學習者在日本生活，能夠在課堂外透過多樣情境自然習得日語，因此日語學習成效往往更佳。

根據日本國際交流基金會公布的日本語能力試驗結果顯示，JFL 學習者在「聽解能力」方面的表現普遍略遜於 JSL 學習者。原因在於聽解訓練與閱讀不同，後者可以依照自己的節奏理解，而聽解卻無法以學習者的速度進行，除非借助特殊教材或設備。聽解練習的特點是必須同時處理理解與不理解的部分，這容易使學習者容易產生無力感並傾向逃避。

二、語言學習策略的認識

研究顯示優秀的語言學習者能夠自然運用適合自己的學習策略;而語言學習較弱的學習者則難以掌握合適的策略，導致學習效果不佳，甚至出現學習動機下降的問題。

學者對「語言學習策略」的定義諸多,在此我認為依據 Oxford(1990)「語言學習策略」的定義;是指學習者在外語學習過程中，能使學習更有效率的練習行為，或是能更準確進行資訊處理的思維歷程。語言學習策略兼具「行動」與「認知」兩個層面，缺一不可。外語學習本質上涉及一連串認知過程，包括記憶（Encoding）、儲存（Storage）、忘卻（Forgetting）與提取（Retrieval），而這些過程都需透過策略的運用來鞏固。

有效的語言學習策略包含：提升接觸聽力練習的機會與時間，特別是使用真實教材（authentic materials）;以及發展合適的學習策略，例如後設認知與推測策略。

吳如惠（2012）研究指出，台灣日語學習者在聽力訓練中使用的策略可分為六大類：「後設認知策略」「認知・基礎策略」「視聽・真實教材運用策略」「推

測策略」「持續策略」「協同策略」。

三、聽力學習策略的應用

吳如惠與吳榮俊(2025)的研究進一步提出利用數位影音平台九大類別的日語學習策略:「後設認知策略」「核心策略」「精實策略」「內容推測策略」「重現策略」「驅動策略」「支持策略」「字幕使用策略」「字幕推測策略」。

然而，在數位學習環境下，仍存在一些問題：(1)真實教材的利用不足,(2)擁有好的語言學習策略。

因此於課堂中讓學生實際運用量表,檢視自我是否擁有良好的聽力學習策略;測量結果班上使用最多的是「核心策略」, 使用最少的是「支持策略」。講者鼓勵學生要多多開發自己較少使用的學習策略,以提升聽解能力。

四、優良學習者的特徵

竹內理(2003)的研究指出，良好語言學習者善於使用後設認知策略，如「具體瞭解學習目標語之必要性」「盡全力增加目標語之使用及學習機會」「每天持續」「學習者主動讓自己處在必須要使用目標語的情境」「在一定的期間集中學習」「大量接觸」「犧牲既有的生活習慣進行學習」「瞭解成果是來自於熱衷學習與努力所賜」「自我要求所需達成之學習量」「訂定小目標，並逐步確認成果並往下一目標前進」「瞭解到外語學習的進步與所投入的時間和自己所付出的代價成正比」「瞭解進步及學習成果並不會如直線般向上」等。

五、結語

在數位時代外語學習者的行為模式與策略運用正逐漸轉變。對 JFL 日語學習者而言，可以透過策略引導與數位資源運用，來補足缺乏語言環境的不足。建立正確的學習策略、善用真實教材、適度控制字幕依賴，將有助於提升聽解能力與整體外語學習成效。

114學年度第一學期Eurasia基金會(from Asia)國際講座
第七期「亞洲共同體：東亞學的構築與變容」系列講次(1)
講題: デジタル時代における外国語学習行動の変化と学習ストラテジー

吳如惠
(2025.09.25)

要旨

講師は、デジタル時代におけるJFL学習者とJSL学習者の差異について指摘した。JFL学習者は言語環境を欠いているため、聴解力が相対的に弱く、字幕に依存する傾向がある。効果的な言語学習には、メタ認知、推測、生教材の活用など、行動的・認知的ストラテジーの統合が求められる。優れた学習者は、自覚的に学習を計画し、継続的に練習を行い、積極的に言語使用の場を創出する。デジタル資源と学習ストラテジーを適切に活用することにより、学習効果を高め、環境的制約を克服することが可能となる。

一、JFLとJSL学習者の差異

台湾の日本語学習者はJFLに分類され、日常的に自然な日本語接触の機会が乏しい。これに対し、JSL学習者は日本で生活しており、授業外でも多様な状況を通じて自然に日本語を習得できるため、学習効果がより高い傾向にある。

国際交流基金が公表した日本語能力試験の結果によれば、JFL学習者の「聴解能力」は一般にJSL学習者より劣っている。その理由は、聴解が読解と異なり学習者の速度に合わせられず、特殊な教材や設備を用いない限り、理解可能な部分と不可能な部分を同時に処理しなければならないためである。その結果、学習者は無力感を抱きやすく、回避傾向を示すことがある。

二、言語学習ストラテジーの理解

研究によれば、優秀な学習者は自分に適した学習ストラテジーを自然に活用する一方、不得手な学習者は適切なストラテジーを十分に身につけられず、学習効果の低下や動機の喪失につながることがある。

ここでは、主にOxford（1990）の定義を参考にし、言語学習ストラテジーとは、学習者が外国語を学ぶ際、学習をより効率的に行える練習行動、または、より正確に情報処理が行える思考過程であるとする。これは「行動」と「認知」の両面を備えており、いずれも欠かせない。外国語学習は、記銘（Encoding）、保存（Storage）、忘却（Forgetting）、想起（Retrieval）といった一連の認知過程を伴い、これらはストラテジーの活用によって強化される。

効果的な学習ストラテジーとしては、聴解練習の機会や時間を増やすこと、特に実素材（authentic materials）の活用や、メタ認知・推測ストラテジーの発展などが挙げられる。吳如惠（2012）の研究では、台湾の日本語学習者が

用いる聴解ストラテジーは「メタ認知ストラテジー」「認知・基礎ストラテジー」「視聴・生教材活用ストラテジー」「推測ストラテジー」「持続ストラテジー」「協働ストラテジー」の６種類に分類される。

三、聴解学習ストラテジーの応用

吳如惠と吳榮俊（2025）の研究では、デジタル動画プラットフォームを利用した日本語学習に関する９つのストラテジーが提示されている。それは「メタ認知ストラテジー」「コアストラテジー」「精緻化ストラテジー」「内容推測ストラテジー」「再現ストラテジー」「駆動ストラテジー」「支援ストラテジー」「字幕使用ストラテジー」「字幕推測ストラテジー」である。

しかし、デジタル学習環境においては、(1) 生教材の利用不足、(2) 効果的なストラテジーの有無、という課題が存在する。

授業中、講師は学生に実際に学習ストラテジーの評価を行わせた。測定の結果、クラスで最も多く使われていたのは「コアストラテジー」であり、最も少なかったのは「支援ストラテジー」である。講師は学生に対し、自分があまり使っていない学習ストラテジーをより多く開発し、聴解力を高めるよう励んだ。

四、優れた学習者の特徴

竹内理（2003）の研究によれば、優れた学習者はメタ認知ストラテジーの活用に長けている。例えば、「目標言語の重要性を認識する」「学習・使用機会を自ら増やす」「毎日継続的に学習する」「使用状況を積極的に創出する」「一定期間集中的に取り組む」「大量の言語に接触する」「学習のために既存の習慣を犠牲にする」「成果は持続的努力の結果であることを理解する」「学習量を設定し、自ら達成を求める」「小目標を立てて段階的に成果を確認する」「進歩は努力に比例することを認識する」「学習成果は直線的に伸びるものではないと理解する」である。

五、結語

デジタル時代において、外国語学習者の行動様式およびストラテジーの活用は変化しつつある。特にJFL学習者にとっては、言語環境の不足を補うために、学習ストラテジーの指導とデジタル資源の活用が不可欠である。適切なストラテジーの構築、実素材の効果的な活用、字幕への過度な依存の抑制は、聴解力の向上および外国語学習全般の成果向上に資するものである。

中国語要旨・まとめ　葉淑華
日本語翻訳　葉淑華
2025.9.25